



首都大学東京 大学院 社会科学研究所



経営学演習 「企業倫理論」 # 9 § CSRとCSVを巡る日米欧の相違点 §

2014年6月13日

岡本 享二 (おかもと きょうじ)
ブレーメン・コンサルティング(株)

本日の講義のポイント

- ・ CSRがEUを中心に国際的な基準やガイドラインで固められ始めると、それに対抗するように新たな概念も出てきた。
- ・ 典型的なものがアメリカのマイケル・ポーターが提唱するCSVの概念だ。CSRとCSVの違いを考察し、将来の動向と、真のサステナビリティ、企業倫理のあり方を考える。
- ・ 高度な対応策としてDeep CSRの概念を紹介する。
 - 4つの基本チャート
 - 行き過ぎた資本主義の課題
 - ReactiveかProactiveな対応かで大きな相違
 - 気候変動、遺伝子組み換えに見るDeepCSRによる解決策
- ・ 講義の初めに、特別課題の発表を行う
 - 「宮沢賢治から学ぶ企業倫理」 藤本邦男

Deep CSR –まとめ–

- ・ Reactiveに行うかProactiveに行うかで大きな差
 - 積極的な環境/CSR対応でビジネスに貢献
 - Due Diligenceの心構え
 - CSRに本気で取り組むEU、CSVで実効を挙げる米国
 - 本質的に優れた文化と歴史のある日本。Deep CSRを!
- ・ TopのCommitmentが最重要
 - In the case of ham and eggs, the pig is really committed, but the hen is just participated.
 - Topを説得することが環境/CSR部門長の責務
- ・ Holistic Management Systemの適用で活性化

Discussion #9

- ・ CSRとCSVの違いとは？ また、どちらが受け入れやすいか？
- ・ Deep CSRと、CSR/CSVとの違いは理解できたか？
利潤を追求する企業にDeep CSRは受け入れられるか？
- ・ 国際的なガイドラインや基準は我が国企業に役立つか？
その中で興味を持ったものが、なにかあるか？
 - GC、GRI、AA1000、ISO26000、IIRCなど等
- ・ 課題(来週までに2,000字以内でレポートを提出)
 - 今まで学んできたように、21世紀に入って急速にCSRに代表される、企業倫理のあり方が問われるようになってきた。ISO26000やGCのような、国際的なガイドラインや基準もできた。一方、その取扱い方は、日米欧の遺伝子組み換えの対応のようにさまざまである。そこで；
 - 21世紀に求められる企業倫理について持論を述べよ。
 - 今日の環境・社会問題の根源はなにか、考察を述べよ。